

晩秋の自然観察研修会報告

活動日 令和5年11月25日(土)

9:30~13:30

場 所 越生町 黒山三滝

参加者 (7名) 岡登 河野 関谷
高杉 辰尾 田崎 松本
(五十音順、敬称略)

講 師 高杉

報告者 松本



常緑性の樹木や草本をテーマに観察を行いました。この日の最高気温は 12℃程度、冬を感じさせる気候でした。そんな中、黒山三滝はインバウンドの観光客やハイキング目的の方々と賑わっていました。平坦な道が多いはずなのですが、観察する我々の足取りはゆっくりです。20分で着く道を2時間以上かけていました。

黒山三滝はシダ植物の種類が多く、特に終点の滝のある岩に張り付いているアオネカズラは分布の北限だそうです。他ではあまり見ないシダ植物の観察ができ、常緑性樹木のアリドオシ、山菜にもなるタカノツメも見ることができました。また、紅葉したイロハモミジやイチョウも綺麗でしたが、サンカクヅルも見事なハート形の紅葉でした。

花の構造に興味深かったのはツリフネソウです。特徴的な姿から普段は何気なく同定しているだけでしたが、花の構造は特徴的でした。萼が3つあり、そのうち一つが大きく袋状になっています。また、花の正面には花弁が3つあります。図鑑を見ながら確認してみると、そのとおりの構造であることに驚きます。

シダ植物はなかなか区別が難しいですが、黒山三滝は種類も多く、楽しむことができます。リュウメンシダ、イヌワラビ、ベニシダといった普通に現れる種のほかに、オオカナワラビ、オニカナワラビ、イワヘゴ、トキワシダなどの普段見ることの少ないシダ植物を観察できました。槍のように先が飛び出た特徴的な姿のホシダ、ソーラスが一見どこについているか分からない(そもそもシダ植物とも思えない)トウゲシバ、サイズ感やソーラスの姿がなんとも可愛いミツデウラボシ(なぜか埼玉では”三つ手”が少ないとのこと)も興味深いシダ植物たちでした。

この時期の観察会は、花の盛りとはズレているがゆえに、普段見過ごしている面白い植物の姿を見ることができました。

以下に、観察した主な植物(五十音順)の写真を紹介します。

アオネカズラ、アカネ(実)、アマチャヅル(実)、アリドオシ、イヌコウジュ(花)、イワヘゴ(全体・鱗片)、オオカナワラビ、カンアオイ、サンカクヅル、シシラン(全体・ソーラス)、ツリフネソウ(花)、テイカカズラ、トウゲシバ、トキワシダ、ホシダ、ミツデウラボシ

